

耐震安全性の確保についてのメッセージ

2006年2月14日

(社)日本建築構造技術者協会

ほとんどの人にとって最大の財産であり、その生命を守るべき建物の耐震安全性能に対する信頼が揺らいでいます。完全に解明されていない地震という自然現象を相手にして、その耐震安全性を確保する建物の構造設計は、高度な専門性が求められます。日本建築構造技術者協会（JSCA）は、この建物の耐震安全性能を確保するために構造設計という業務を担っている専門技術者（もちろん一級建築士です）が、不確定な地震に対して出来るだけ安全な建物を造ることを目的として作った団体です。

今回の耐震強度偽装事件に対して、JSCAは構造設計専門技術者の協会としての対応と意思表示を行なってきました。事件発生直後に相談窓口を開設し、さらに行政や民間からの依頼を受けて構造設計のチェック作業を行なっています。また、その間、報道機関やホームページを通じ情報開示や意見表明を行なっており、1月20日に会員集会を開いて意見交換を行ない、それを踏まえて下記の提言を行うに至りました。

建物の耐震安全性能を確保するためには、確認審査を担当する人が、自らの技術を向上させ、コンピュータープログラム依存や形式を重視した制度に頼るのでなく、構造設計を理解し本質的に確認できる仕組みを作らなくてはならない、とJSCAは考えています。

1. 構造設計者の資格と責任

1) 構造設計者名の明示

誰が構造設計を行ったか判らないため、耐震安全性の確認に時間がかかっています。構造設計に責任を持ち、それを皆さんに明示することをしなければいけないと考えています。確認申請図書に署名、押印することで構造設計者名を明らかにすることや、工事看板に構造設計者名を明示することが必要で、速やかに実行するためには法的な義務づけも必要だと考え、活動しています。

2) 専門性の高い構造設計者の資格

信頼できる構造設計者かどうかを皆さんに判断して頂くためには、一級建築士とは別に構造設計者の資格が必要だと考えています。責任を担える構造設計者となるための一つの要因として資格制度を検討し、必要なら国家資格とすることも視野に入れていきます。

3) 経験の積み重ねが大切

心に語りかける建物を設計すること、その耐震安全性能を確保することは、経験に裏打ちされた知識が必要です。優れたコンピュータープログラムでも、それを使う構造設計者の能力次第で耐震安全性能の確認に役立たない場合があります。安全な建物を造るためには適切な構造計画とそれに見合った構造計算、計算結果を判断して問題点を修正するといった仮定が必要です。優秀な構造設計者に勝るコンピュータープログラムは存在しません。

2. 安心できる確認審査の提案

1) 構造計算書だけでは不十分

構造計算書は構造設計を検証しているだけです。構造計算書の偽造を発見するだけでは耐震安全性能を確認したことになりません。確認申請の審査で重要なのは、構造設計の考え方、それをコンピュータープログラムで検証するためのモデル化など設計内容です。審査する人の知識を向上させて、偽造を発見することだけでは不十分で、設計内容の精査が出来る人を育てることが必要です。

2) 大臣認定プログラムへの依存は危険

大臣認定プログラムといわれている制度は、確認申請に必要な書類の一部の提出を省略出来るだけで、計算された結果が正しいことを保証しているわけではありません。今回の事件は、大臣認定プログラムは「正しい」と思いこんだことが発見が遅れた原因になっています。確認審査をする人が過度に依存するという弊害を生んでいますので、廃止を含めた制度の見直しを行うべきと考えています。

3) 意味のない再計算

再発防止策として、構造計算書の入力データを確認申請時に添付し、それで再計算を行って偽装の有無を確認するという案が検討されています。偽装が行われている物件の比率は極めて低いため単純な再計算は審査を形骸化させる危険が高いとJSCAは考えています。構造設計の審査は、基本的な数値の整合性の確認や略算的な方法で十分効果があり、昨年12月以降JSCAでは行政や民間からの依頼を受けて構造設計のチェック作業を行ない成果をあげています。

4) 新しい審査方法の提案

あらゆる審査機関で設計内容の精査ができる仕組みを作ることを目指し、構造設計のチェック方法、審査マニュアルを作成するとともに、行政や民間審査機関の審査担当者の能力と知識の向上が必要です。JSCAは会員として多くの構造設計者が居ますので、その経験をこれからの審査方法構築に全面的に協力します。

5) さらに優れた耐震安全性能の確認方法の提案

JSCA の建築構造士は多くの建物の構造設計の経験があり、また設計検証を行なった実績も十分にあります。前項で述べた審査方法に加えて、多くの人が集まる建築物や大規模なものでは第三者審査を義務付けることも必要だと考えています。

3. 耐震安全性能に関する説明責任

1) 耐震相談の継続と耐震安全性能に関する講習会の開催

JSCA は現在行なっている耐震相談を継続して行い、自宅の耐震安全性への不安の解消のお手伝いをするに加え、皆様向けの建築構造講座（仮称）を行ない、私たちが行っている建築の構造設計という仕事の説明や、耐震安全性能を確認するためのポイントなどを伝えてゆきます。

2) 耐震安全性のレベルの説明

大地震の時に人命が助かれば良いことを設計目標とするか、大地震以前と同じ生活が出来るようにすることを設計目標とするかなど安全性にもレベルがあります。皆さんに判りやすく、どのレベルの建物を設計の目標にするかの判断に役立つ構造説明用資料やメニュー作りなどを行ないます。

3) 構造設計者の選択と構造設計にかかる費用

構造設計者は建築設計者と相談して目標とする耐震安全性能を実現するために知恵を絞ります。また安かろう・悪かろうではなく、適切な建設費を考えながら構造計画を進めます。信頼できる構造設計者をどうやって選べばよいか、適切な構造設計料はどの程度なのかなど、契約に関わる仕組みを考え公表していきます。